



エイリアス、注釈、およびタグ

- [エイリアス、注釈、およびタグ \(1 ページ\)](#)

エイリアス、注釈、およびタグ

オブジェクトの識別、アドレス指定、およびグループ化を簡素化するために、ACIは、ユーザがラベルメタデータをオブジェクトに追加するためのいくつかのメソッドを提供します。これらのメソッドは、以下のリストにまとめられています。

- **[名前エイリアス (Name Alias)]** : GUI エンティティの表面的な代用。
- **[グローバルエイリアス (Global Alias)]** : オブジェクトの識別名 (DN) の代わりに使用できる、ファブリック内で一意のラベル。
- **[タグインスタンス / 注釈 (Tag Instance / Annotation)]** : 簡単なメモまたは説明。
- **[ポリシータグ (Policy Tag)]** : オブジェクトをグループ化するためのラベル。同じクラスである必要はありません。

Alias

ACI オブジェクトモデルでは、すべてのオブジェクトに一意の識別名 (DN) があります。これは、親オブジェクト階層とそれ自体の名前を含む長い識別子であることがよくあります。たとえば、**aepg35** という名前のアプリケーションエンドポイントグループを含む、**ap13** という名前のアプリケーションプロファイルを含む **Tenant2468** という名前のテナントについて考えてみます。APIC によって生成された、そのアプリケーションエンドポイントグループの DN は次のとおりです。 **uni/tn-Tenant2468/ap-ap13/epg-aepg35** これらの各オブジェクトが作成された後、ACIは通常、名前を変更することを許可しません。変更すると、名前が変更されたオブジェクトのすべての子孫オブジェクトの DN が変更されるためです。この不便さを克服するために、ACIは2つのエイリアス関数を提供します。GUI用の名前エイリアスとAPI用のグローバルエイリアスです。

名前エイリアス

名前エイリアス機能（または、設定がGUIに表示される場合は単に「エイリアス」）は、APIC GUIで表示されるオブジェクトの名前を変更します。基になるオブジェクト名は変更できませんが、管理者は、オブジェクトプロパティメニューの[エイリアス (Alias)]フィールドに目的の名前を入力することにより、表示された名前を上書きできます。GUIでは、`name_alias (object_name)`として、エイリアス名が括弧内に実際のオブジェクト名とともに表示されます。テナント、アプリケーションプロファイル、ブリッジドメイン、EPGなどの多くのオブジェクトタイプは、エイリアスプロパティをサポートします。オブジェクトモデルでは、名前エイリアスプロパティは `objectClass.nameAlias` です。たとえば、テナントオブジェクトのプロパティは `fvTenant.nameAlias` です。

前述のテナントの例を使用して、管理者がテナント名「Tenant2468」ではなく「AcmeManufacturing」を表示したいとします。Tenant2468テナントプロパティの[エイリアス (Alias)]フィールドに優先名を入力すると、GUIは **AcmeManufacturing (Tenant2468)** を表示します。

名前エイリアスプロパティは、APIC GUIの単に表面的なものです。エイリアスはどの範囲でも一意である必要はなく、同じ値を他のオブジェクトの名前エイリアスとして使用できます。

グローバルエイリアス

グローバルエイリアス機能により、APIの特定のオブジェクトのクエリが簡素化されます。オブジェクトを照会するときは、固有のオブジェクトID（通常はオブジェクトのDN）を指定する必要があります。別の方法として、この機能を使用すると、ファブリック内で一意のラベルをオブジェクトに割り当てることができます。前の例を使用して、グローバルエイリアスを使用せずに、次のAPIリクエストを使用してDNでアプリケーションエンドポイントをクエリします。

```
GET: https://APIC_IP/api/mo/uni/tn-Tenant2468/ap-ap13/epg-aepg35.json
```

オブジェクトプロパティメニューの[グローバルエイリアス (Global Alias)]フィールドで、より単純でありながら一意の名前を構成することにより、グローバルエイリアスを別のAPIコマンドとともに使用して、オブジェクトをクエリできます。

```
GET: https://APIC_IP/api/alias/global_alias.json
```

前の例を使用して、アプリケーションエンドポイントグループの構成プロパティの[グローバルエイリアス (Global Alias)]フィールドに「AcmeEPG35」と入力すると、クエリURLは次のようになります。

```
GET: https://APIC_IP/api/alias/AcmeEPG35.json
```

APICオブジェクトモデルでは、グローバルエイリアスは、エイリアスされるオブジェクトにアタッチされる子オブジェクト (`tagAliasInst`) です。前の例では、グローバルエイリアスオブジェクトは、アプリケーションエンドポイントグループオブジェクトの子オブジェクトになります。

詳細については、『*APIC REST API 構成ガイド*』の「タグとエイリアス」の章を参照してください。

名前エイリアスまたはグローバルエイリアスの作成

この手順例は、テナントのアプリケーションプロファイルの名前エイリアスとグローバルエイリアスを作成する方法を示しています。他の多くのオブジェクトは、オブジェクトに移動した後、同じ手順を使用してこれらのエイリアス機能をサポートします。

-
- ステップ 1** メニューバーで [テナント (Tenants)] を選択し、該当するテナントを選択します。
 - ステップ 2** [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[tenant_name]>>[Application Profiles]>>[application_profile_name] の順に選択します。
 - ステップ 3** [Work] ペインで、[Policy] タブをクリックします。
アプリケーションプロファイルの [プロパティ (Properties)] ページが表示されます。
 - ステップ 4** [エイリアス (Alias)] フィールドに、エイリアスの名前を入力します。
エイリアスは、どの範囲でも一意である必要はありません。
 - ステップ 5** [グローバルエイリアス (Global Alias)] フィールドに、アプリケーションプロファイルの識別名 (DN) のエイリアスを入力します。
グローバルエイリアスは、ファブリック内で一意である必要があります。
 - ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックします。
-

名前エイリアスを構成した場合、アプリケーションプロファイルは [ナビゲーション (Navigation)] ペインで *alias (name)* として識別されます。たとえば、[名前 (Name)] が **ap1234** で、**SanJose** として [エイリアス (Alias)] を構成した場合、アプリケーションプロファイルは **SanJose (ap1234)** として表示されます。

グローバルエイリアスを構成した場合、グローバルエイリアスをサポートする API コマンドで、アプリケーションプロファイルの識別名 (DN) をその値に置き換えることができます。

注釈

メタデータの任意の key:value ペアを注釈 (tagAnnotation) としてオブジェクトに追加できます。注釈は、説明、個人的なスクリプトまたは API 呼び出しのマーカー、または監視ツールまたは Cisco Multi-Site Orchestrator (MSO) などのオーケストレーションアプリケーションのフラグなど、ユーザのカスタム目的のために提供されます。APIC はこれらの注釈を無視し、それらを他のオブジェクトデータとともに格納するだけなので、APIC によって課される形式またはコンテンツの制限はありません。

注釈の進化

ユーザ定義の注釈情報の APIC サポートは、次の手順で時間の経過とともに変更されました。

- Cisco APIC リリース 4.2(4) より前は、APIC は単純な文字列を格納するタグ インスタンス (tagInst) をサポートしていました。APIC GUI メニューでは、これらは「タグ」としてラベル付けされていました。
- Cisco APIC リリース 4.2(4) では、多くの最新のシステムがキーと値のペアをラベルとして使用しているため、API のメインラベル オプションとして key:value 注釈 (tagAnnotation) に移動するように変更が加えられました。タグ インスタンス (/api/tag/your_tag.json) を介してオブジェクトをクエリするショートカット API は廃止されました。APIC GUI は、「Tags.」というラベルの付いた単純な文字列タグ インスタンス (tagInst) を引き続き使用していました。
- Cisco APIC リリース 5.1(1) では、タグ インスタンス (tagInst) は GUI で廃止されました。GUI メニューでは依然として「タグ」という用語が使用されていましたが、実際には注釈 (tagAnnotation) が構成されていました。また、このリリース以降、すべての注釈のリストは、[ファブリック (Fabric)]>[ファブリック ポリシー (Fabric policies)]>[タグ (Tags)] から表示できます。
- Cisco APIC リリース 5.2(1) では、GUI メニューラベルが「タグ」から「注釈」に変更されました。この変更は、ポリシー タグとの混同を避けるために行われました。

注釈の作成

この手順例は、テナントの注釈を作成する方法を示しています。他の多くのオブジェクトは、オブジェクトに移動した後、同じ手順を使用して注釈機能をサポートします。

ステップ 1 メニュー バーで [テナント (Tenants)] を選択し、該当するテナントを選択します。

ステップ 2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、*tenant_name* を選択します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[Policy] タブをクリックします。

テナントのプロパティメニューが表示されます。

ステップ 4 [注釈 (Annotations)] の横にある [+] 記号をクリックして、新しい注釈を追加します。

ステップ 5 注釈キー ボックスで、既存のキーを選択するか、新しいキーを入力します。

ステップ 6 注釈値ボックスに値を入力します。

キーと値に使用できる英数字と記号は、a~z、A~Z、0~9、ピリオド、コロン、ダッシュ、またはアンダースコアです。

ステップ 7 ✓ 記号をクリックして注釈を保存します。

この手順を繰り返すと、注釈を追加できます。

ポリシータグ

ポリシータグ (tagTag) 、または単にタグは、ACI 機能で使用するためのユーザ定義可能なキーと値のペアです。1 つのオブジェクトに複数のタグを構成でき、複数のオブジェクトに同じタグを適用できます。多くのオブジェクトクラスがポリシータグをサポートしているため、ポリシータグを使用して異なるオブジェクトをグループ化できます。たとえば、ポリシータグを使用して、Cisco APIC リリース 5.2(1) の ESG タグセレクターを使用して、エンドポイント、サブネット、および VM を 1 つのエンドポイントセキュリティグループ (ESG) としてグループ化できます。

ポリシータグを使用する ACI 機能には次のものがあります。

- エンドポイントセキュリティグループ (ESG)

ポリシータグの作成

この手順例は、静的エンドポイントのポリシータグを作成する方法を示しています。他のいくつかのオブジェクトは、オブジェクトに移動した後、同じ手順を使用してポリシータグをサポートします。

ステップ 1 メニューバーで [テナント (Tenants)] を選択し、該当するテナントを選択します。

ステップ 2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、`[tenant_name]>>[アプリケーションプロファイル (Application Profiles)]>>[application_profile_name]>>[アプリケーション EPG (Application EPGs)]>>[application_epg_name]>>[静的エンドポイント (Static Endpoint)]` の順に展開します。

ステップ 3 [作業 (Work)] ペインで、タグ付けする静的エンドポイントをダブルクリックします。

[静的エンドポイントプロパティ (Static Endpoint properties)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [ポリシータグ (Policy Tags)] の横にある [+] 記号をクリックして、新しいポリシータグを追加します。

ステップ 5 タグキーボックスで、既存のキーを選択するか、新しいキーを入力します。

ステップ 6 タグ値ボックスにタグ値を入力します。

キーと値に使用できる英数字と記号は、a~z、A~Z、0~9、ピリオド、コロン、ダッシュ、またはアンダースコアです。

ステップ 7 ✓ 記号をクリックしてタグを保存します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。